機動戦士ガンダム～オタク商人の日常～

H L

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム〜オタク商人の日常〜

【Nコード】

N4351L

【作者名】

H L

【あらすじ】

普通の高校に通う高校生、城山^{しみやま} 真^{まこと}はアニメ鑑賞とガンダム系の機体設計図を描く事が趣味の俗に言うオタク、そんな真はある日設計図を描いていると地震が起こり倒れた本棚に巻き込まれ意識を失う、気が付くと目の前には神と名乗るおっさんがいた。

オタクの日常

「よし！できた。」

俺は机から顔を上げ椅子の上で伸びをする。

何が出来たかだつて？これはガンダムに登場した機体を元に作った俺オリジナルの機体の設計図だ！はっはっはっは………、なんだろう凄く虚しい。

俺、城山^{しんがま} 真はごく普通の高校に通う高校生だ、趣味はアニメ鑑賞とロボットアニメの機体の設計図を描くこと、まあ俗に言うオタクってやつだ、自分で言うのもなんだが。まあとにかく設計図は出来上がったぜ、作るのに一週間かかったが………ころそこ、そんな痛い目で見えるな！

「ねみいー。」

流石に徹夜はきついな、幸い明日は日曜日だ寝るとするか。

そう思い設計図を本棚のファイルに仕舞おうと本棚に近づいた。その時大きな地震が起きた。

「うおっ！地震か！？結構大きいぞ。」

そして突然俺目掛けて本棚が倒れてきた。

「うわー！ー！」

鈍い痛みのもと俺は意識を失った。

あからさまな神様発見！

妙な暖かさに真は目が覚めた。

「ん…あれ？ここは？」

目を開けるとそこは真っ白で何もない空間だった。

あれ？確か俺自分の部屋に居て設計図描いて……そうだ！地震があつて本棚の下敷きになったんだつた。

そうだったそうだった、いや〜思い出せてスッキリした！つと納得している場合じゃなかった状況確認しなきゃ。

現状…あちこち真っ白。

以上！よし！寝よう。

「ちよつと待てい！少しは焦るか騒ぐかしらよ！」

何処からともなく白髭のじいさんが現れた！

コマンド

？殴る

？蹴る

？刺す

「敵じゃないから！と言うかまともな選択肢がないし、それにどこかで見たことあるぞこれ！」

じいさんは慌てて弁解しながらツツコミを入れてきた。

「やるなじいさんこのネタが分かるとは、て言うかじいさん誰だ？」

「今さらか！まあいい、とにかく自己紹介するかワシは神じゃ。」

「へっ？」

真はじいさんの言葉を聞くと間抜けな声を上げた。

「神様つて誰が？」

真は信じ切れずじいさん改め神様に聞き直す。

「ワシじゃ。」

まっさかーこんなあからさまな格好で何処にでも居そうなじいさんが神様あ〜？「悪かつたなこんなあからさまな神様で！」

「あれ？口に出てた？」

「神様なんだから心くらい読めるわい、て言っかちょっとは否定せ
い！」

「じゃ本当にじいさんが神様？」

「何度もそう言っとなるだろうが！」

真はやっと目の前にいるじいさんが神様だということを感じた。

呼ばれた目的

「で、何で俺はこんな所に居るんだ？」

そう聞くと神様は一瞬ビクツとなり大量の冷や汗を流し目が泳ぎ始める。

反応分かりやすっ！このじじい何か隠してるな。

「べ、別に何も隠しとらんぞ。」

「ならこつちに目を合わせろ。」

神様はいっこつちに目を合わせようとしな。

そして一瞬こつちをチラツと見る。

「本当の事言うから怒らない？」

神様は悪い事をした女の子のように聞いてくる。

「わかった怒らないからさっさと見え、そしてその聞き方じいさんがやってもキモい上に殺意が沸くだけだからやめろ。」

神様はモジモジしながらチラチラこつちを見ていっづらそうにしている。

ヤベツ物凄く殺したくなってきた。「じ、実はのうお主はワシの手違いで死んでしまったんじゃ本当にすまん！」

神様は言ったとたんにびくびくこつちを見てくる。それに対して真はニコニコしながら神様に近寄っていき神様は真の笑顔を見たとき顔がパアツと明るくなる、そして次の瞬間神様の顔に真の拳がめり込み吹っ飛ぶ。そして神様は鼻血を出しながらよろよろと立ち上がる。

「な、何するんじゃ。」

「何するんだじゃない！何で俺がお前のせいで死ななきゃならんだ。」

「じゃから代わりに別の世界でお主には生きてもらっ。」

その言葉を聞いた瞬間真はポカーンとなった。

「それはマジか？」

「うむ、本気と書いてマジじゃ。」
突然ポカーンとした真の顔が喜びの色に変わった。

「もしかして行ける世界選べる？」

「もちろんじゃ。」

真は大喜びしさつきまで激怒していたことを忘れ神様はほっとする
が突然真は落ち込む。

「どうしたんじゃ？」

「いや、こんなことに成るんだったら設計図持って来れば良かった
って思ってた……。」

神様は「なんだそんなことか。」と言うと真の目の前に設計図が入
ったファイルを出す。

「どうしてこれが此処にあるんだ？」

「ワシは神じゃぞ、こんなこと朝飯前じゃ。」

「ありがとう！じいさん。」真は満足げに笑っている。「そういえ
ば聞いてなかったがどの世界に行きたいんじゃ？」

真はワクワクしながら神様に応える。

「ガンダムの世界がいい！」「わかった、あと何か欲しいものある
か？」

「じゃあまず年をとらない体とどんな機体にも乗れるようにしてく
れ、あとこれとこれの設計図の機体が欲しい。」

「わかった、他には？」

「じゃあ最後に時間移動出来るようにしてくれ。」

「OKじゃ、じゃあ楽しんで来てくれ。」

「ああ、じゃあな。」

そして白い光に包まれ真は白い空間から消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4351/>

機動戦士ガンダム～オタク商人の日常～

2010年10月21日23時08分発行